

一緒にしましょう コミュニティづくりを!

# 中野ふくし倶楽部通信

「中野ふくし倶楽部」は、主に中野区に暮らす人々の福祉の向上と子どもたちの豊かな育ちに貢献することを目的としています。

NPO 法人 中野ふくし倶楽部  
 発行責任者 北風敦子  
 編集者 田中芳樹  
 中野区中央 4-53-7 YHNビル 101  
 TEL 03-3384-5616

## デイサービス 地域に ちいさいからできる! 根づいてこそできる!

あおぞら所長  
 北風 敦子

秋も深まってきた 11 月のある日、あおぞら介護事業所の「芋煮会」がおこなわれました。今回は山形風芋煮! ととても好評で、牛肉と豚肉の芋煮をみんな食べ比べ、おかわりしました。

こんな取り組みができるのは、地域に密着した小規模デイサービスだからこそです。介護に関わるスタッフと地域の方々の、ご協力あればこそできることです。

当日はあいにくの雨で室内でのイベントでした。その日の利用者さんは日頃のデイサービスの様子から一変し、30 人以上集まった人たちの賑やかさにびっくりしていました。

社会保険労務士である S さんのアコーディオン伴奏で、懐かしい歌やリクエスト曲など数曲を

合唱。おいしいものを食べ、声を出して思いっきり歌い、和やかな時間があっという間に過ぎました。利用者さんの穏やかな顔や、隣の方への優しいお声かけが見られました。

行事は春には、桜の樹の下でのお花見会とお茶会、夏祭り、クリスマス会等、参加者はダイルールの利用者さんだけでなく、訪問介護事業所も協力しています。ケアマネージャが担当している利用者さんに声をかけたり、近所の方もお誘いします。紙芝居や、マジック、ギター演奏を始めボランティアの方々のご協力で、小規模デイサービスは楽しく充実した取り組みを常に考えます。

デイサービスに通ってくることでの変化は無数にあります。足腰が丈夫になり、歩行がしっとりしてきた。おいしい食事に食欲も増した。本音でしゃべるので衝突もあるけど、人への思いやりも生まれた等々...

日々の暮らしの一部であるデイサービスでの生活を通し、今日一日が充実して過ごせたと、心の日記の 1 ページに刻めるよう、今日もスタッフは一人ひとりに心を配っています。



### ダイルームあおぞら

中央 4 丁目にある小規模デイサービスです。

古民家を再利用し、家庭的な雰囲気運営しています。昼食はここで手作り、できたての  
 おいしいお食事が楽しめます。



いつでも見学できます。大歓迎!  
 どうぞお気軽においでください。

連絡先: TEL 03-3384-5616



# お元気ですか？

理事長 大畑 きぬ代

いつの間にか年の瀬、さて2013年は皆さんにとってどんな一年だったでしょうか。私たちの仲間の一人は“コミュニティカフェ”を始め、地域の人の「居場所」を一つ増やしました。私も住んでいる地域で「よりよい高齢期のために」と高齢者や介護保険事業で働く人と数ヶ月一緒に考えてきました。人とひとの顔が見え、挨拶し、お茶し、一品交換の近所付き合いがある“生活圏域”をつくっていきこう、と努力した一年でした。

加齢に伴う体のあちこちの能力低下は認めざるを得ませんが、憲法25条に定める「誰もが健康で文化的な最低限度の生活を営むことができる」国であってほしいと願います。

ところが、師走の国会は市民に取り囲まれていました。「秘密」の名で目も口も耳も封じられてはたまりません。新しい年を迎えられることをお互いに喜びつつ、攻防戦は続きます。

良い年をお迎えください。

## 中野ふくし倶楽部日誌

- 9月 22日 あおぞら梨狩り 26名参加
- 10月 20日 第4回理事会
- 10月 21日 学習と交流の連続講座
- 11月 15日 あおぞら合同芋煮会
- 11月 24日 第5回理事会

## 新人紹介

あおぞら在宅介護サービス  
常勤ヘルパー

若松 紘介さん



「死は体験できない。生きるということは死を準備することだと思います。」

ズバリと言う。大学では教育学部教育学科。福島県いわき市出身、30歳。震災で実家は幸い無事でした。大学の卒論では加須市に避難している双葉町の町民からの「聞き書き」をして論文に。そのとき知り合った書道の先生に弟子入りし、今も通信で添削を受けている。

「友人から『介護向いてんじゃない』と言われたこともありました。小さい頃、祖母の介護をする母親を見ていました。そのときは何とも思いませんでしたが、今思い出すと意味があったかな。」

『あおぞら』はしっかりした組織だと思います。前の職場では残業代も払われませんでしたからね。今の仕事は楽しい。人と関わることが自分のテーマ。困っている人のそばにどれだけ寄り添えるか。自分を試したい。」

休みの日は小説読んだり友人と出かけたり。「この前スカイダイビングやりました。仮死と再生を繰り返すスポーツですね。」これもズバリでした。

# 人間らしく生きたい！…うずまく国民のさけびと運動…

## 10月21日 学習と交流の連続講座 講師:NPO法人朝日訴訟の会 朝日健二さん

生活保護世帯は、1995年の88万人を最低にその後毎年増加して、2012年度には、戦後最多の216万人になった。しかし、人口1億2700万人に対しては、利用率1.7%、補足率は15.3%から32%と推定されている。生活保護の要件のある方のうち、実際に保護を受けている方は2~3割です。これに対して、国連「日本の第3回定期報告書に関する総括所見」(2013.5.17)では、保護の申請手続きを簡素化し、かつ申請者の尊厳をまもることを求めている。

それに反して、安部政権は①今年の8月から3段階

で生活保護費の引き下げを強行した。最大10%にのぼる引き下げは、年間まる1カ月分の生活費が引き下げられるに等しい冷酷な仕打ちです。②もう一つは生活保護法の改悪で、申請手続きの厳格化、「水際作戦」の合法化、法制化が図られたことです。これに対して1万人の方が不服審査に立ち上がっています。

生活保護基準の引き下げは、税金・年金などの仕組みに連動しており、他人ごとではありません。消費税の増税、社会保障の切り下げに、たたかってこそ権利は守られる、というお話でした。(副理事長 矢田和雄)